

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：22605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03932

研究課題名(和文) サイト・スペシフィック・ストーリーテリングの戦略化に関する研究

研究課題名(英文) Research on Strategizing Site-Specific Storytelling

研究代表者

板倉 宏昭 (ITAKURA, HIROAKI)

東京都立産業技術大学院大学・産業技術研究科・教授

研究者番号：80335835

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：「サイト・スペシフィック・ストーリーテリング(SSS)」は、地域ビジネスの発展を目指し「地域ならではの物語」に注目し、その構造を明らかにしてきた。企業の地域戦略や行政の政策に貢献するため、SSSの有効な規定要因と影響要因を明らかにしてきた。また、組織論と戦略論の新たな展開を模索して、SSSの戦略化に焦点を当てた研究をしている。最終年度は、地域ビジネスや地域振興の成功要因を明らかにするために、地域バリューチェーンを用いた実証研究を行った。檜原村関係者へアンケート調査と統計的方法論の活用により、檜原村の構造的な分析を行い、将来を予測しつつ背景を分析するためにNPSやテキストマイニングを活用した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究は組織論と経営戦略論に関係し、理論的な枠組みを拡張し新たな洞察を提供すると同時に、企業の地域戦略や地域に於ける行政の政策立案に貢献します。また地域ビジネスの成功要因を明確化し、地域経済の発展や持続可能な開発に役立つ情報を提供するもので、檜原村の調査による構造的な分析と将来予測、NPSやテキストマイニングの活用による地域特性と課題の把握は、地域問題解決や政策立案にも貢献します。

研究成果の概要(英文)："Site-Specific Storytelling (SSS)" has focused on the unique narratives specific to each region to promote the development of local businesses, revealing its underlying structure. In order to contribute to corporate regional strategies and governmental policies, the effective determinants and influencing factors of SSS have been elucidated. Furthermore, research has been conducted with a focus on strategizing SSS, exploring new directions in organizational theory and strategic management. In the final year, empirical studies utilizing the regional value chain were conducted to uncover the key success factors in regional business and promotion. Through surveys of stakeholders in HINOHARA Village and the application of statistical methodologies, a structural analysis of the village was performed, employing tools such as Net Promoter Score (NPS) and text mining to analyze the background while making predictions about the future.

研究分野：地域開発

キーワード：サイト・スペシフィック・ストーリーテリング;SSS NPS: ネット・プロモーター・スコア 島嶼部や多摩地域の振興 地域バリューチェーン 地域コミットメント 重層的リーダーシップ 超産業化戦略 檜原村

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開発当初の背景

- S S Sは、私の造語である。前半の「サイト スペシフィック (Site Specific)」は、主に芸術の分野で用いられる。その場所の特性を活かすことが特徴である。例えば、瀬戸内国際芸術祭は、地域と芸術が結びついたサイト・スペシフィックなアートで瀬戸内海の美しさや島の人々と交流できるというS S Sを売った。
- 後半の「ストーリーテリング (Storytelling)」とは、理解してもらいたいコンセプトや思いを、それらを想起させるストーリーを通して伝えることである。表 1 にあるように、従来のストーリーテリング研究は、主にリーダーシップの側面から組織変革 (Brown et al., 2004)や企業倫理の浸透 (Jørgensen & Boje) 等の大企業のトップマネジメント中心の議論である (e.g. Denning, 2004; Brown et al., 2004)。しかし、地域ビジネスの担い手は、中小企業や非営利活動であり、トップリーダーだけではなく、デザイナーやプランナーなど外部力(ヨソモノ)の担い手が内部力(ジモティ)と連携してバックアップしていることが確認されている。このような地域ビジネスの特徴は、従来のストーリーテリング研究では取り扱われてこなかった点である(表 1)。

表 1 従来のストーリーテリング研究との相違

	従来のストーリーテリング研究	本研究 (S S S)
対象	組織体のトップ・マネジメント	デザイナーやプランナーなど 多重的なリーダー
対象組織	大企業・大組織	地域発の中小企業、非営利組織
分析する行動	組織のリーダーの指示的行動	外部力と内部力の連携等のプロセス

2. 研究の目的

- 地域ビジネスの基盤となる「『地域ならではの物語』を売ること」を「サイト・スペシフィック・ストーリーテリング (Site Specific Storytelling: S S S)」(以下、S S Sと略す)と定義し、その構造を明らかにする。
- 本研究では、「内部力(ジモティ)だけではなく、外部力(ヨソモノ)を含めた組織が相互交流して、S S Sという行動を実践し、戦略化 (Strategizing) する」という戦略観にたって分析を進める。新たな組織と戦略とS S Sの創発的な戦略形成過程を科学的に明らかにしたい。
- さらに、S S Sを含めた地域ビジネスの総合的な構造を明らかにするとともに、四国地域以外の東京都檜原村を含めた一般妥当性を検討する。

3. 研究の方法

- 単なるミクロな個別プロセス研究ではなく、理論的にSSSの戦略化（Strategizing）の観点から、組織論と戦略論の新たな展開を図る。そのため、事例研究とともに、サーベイデータによる多変量解析の他、共分散構造分析やNPS(Net Promoter Score)とAIによるテキストマイニングを含む定量的分析、及びフィードバックインタビューを行った。
- 申請者の一連の研究で、地域ビジネスは、内部力（ジモティ）と外部力（ヨソモノ）による地域コミットメントと重層的な担い手によるSSSを浸透させることが有効であることを示した。

4. 研究の成果

- 地域ビジネスに有効なSSSの規定要因と影響要因を明らかにすることにより、地域企業のみならず、全国企業の地域戦略や行政の政策に貢献できた。
- 社会的に大きな意味をもつ。地域を愛する様々な担い手が連携してSSSを戦略化することは、我が国の緊急の課題である。人材が不足した「持たざる地域における悪循環」を断ち切るには、SSSの戦略化は必須であるため、構造を明らかにした。
- 実践的な意味合いをもつ。SSSの戦略化は、東京一極集中是正の政策にも有効である。また、地方圏の企業だけではなく全国企業の地域毎のマーケティングにも有効である。
- 学術的に独自性がある。成熟した我が国の地方発の地域ビジネスモデルを確立する。SSSからビジネス戦略を生む戦略化研究により、組織論と戦略論の新たな可能性を示した。
- 調査に協力した企業や行政等へ研究成果をフィードバックした。国内外に研究成果を報告した。さらに、単著（勁草書房）（525ページ）の著書及びケース集（勁草書房）（160ページ）を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Shogo Kamei, Hiroaki Itakura, Setsuko Shibuya	4. 巻 2021
2. 論文標題 Extension of Socioemotional Wealth Perspective with the process of Selecting Local Family Business Successors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ELSEVIER Procedia Computer Science	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 信田勝美、板倉宏昭	4. 巻 第15号
2. 論文標題 観光資源としての森林セラピー基地の可能性 - 東京都檜原村の例 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都立産業技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 第12回
2. 論文標題 ポストコロナ社会における環境と経済の両立	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横幹連合コンファレンス	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 第2号
2. 論文標題 経営者倫理の基本問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 スタートアップアクセラレーター研究所 報告論文集	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 57号
2. 論文標題 分散型自律組織の未来社会 - ブロックチェーンの挑戦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践経営	6. 最初と最後の頁 147-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好祐輔, 都築治彦, 亀井省吾, 板倉宏昭	4. 巻 14号第1巻
2. 論文標題 台湾企業大潤発の中国市場進出成功の経営戦略に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 横幹	6. 最初と最後の頁 83 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuusuke Miyoshi, Haruhiko Tsuzuki, Hiroaki Itakura	4. 巻 12
2. 論文標題 Empirical Study on the Effects of Deregulation in the Japanese Taxi Market	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Management Systems	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Kimata, Hiroaki Itakura	4. 巻 64
2. 論文標題 Interactions between organizational culture, capability, and performance in the technological aspect of society: Empirical research into the Japanese service industry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Technology in Society	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭, 藤田正典	4. 巻 14
2. 論文標題 スタートアップを加速させるための仕組みに関する高等専門学校出身者へのインタビュー結果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京都立産業技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 1
2. 論文標題 経営学のデザイン志向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スタートアップ・アクセラレータ研究所報告論文集	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木全晃、板倉宏昭	4. 巻 62
2. 論文標題 組織変数を考慮したポーター仮説の実証研究 四国地域のサービス業をサンプルに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本経営システム学会全国経営発表大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 180-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 11
2. 論文標題 分散自律企業の可能性-ブロックチェーンの影響関係-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実践経営学研究	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木佐谷康、三好祐輔、都築治彦、安藤豊、亀井省吾、板倉宏昭	4. 巻 13
2. 論文標題 公的機関の創業事業の考察について～内部収益率(IPR)による事業性評価～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 産業技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好きよみ、板倉宏昭	4. 巻 13
2. 論文標題 専門職大学院でのシニア層を対象とした学び直しプログラム - スタートアッププログラム受講者へのインタビュー、及びアンケート結果からの知見 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 産業技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 77 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城裕昭、板倉宏昭	4. 巻 第10回
2. 論文標題 商店会に於ける店舗承継の実際と地域バリュー・チェーンによる 持続的価値の提供	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 横幹連合カンファレンス	6. 最初と最後の頁 1 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Miyoshi, Haruhiko Tsuzuki, Hiroaki Itakura	4. 巻 11
2. 論文標題 The Effect of Bonuses and Manager Shareholding Ratio on Cooperate Scandals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Japan Association for Management	6. 最初と最後の頁 55 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 No.55
2. 論文標題 小豆島にみる離島ビジネス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実践経営	6. 最初と最後の頁 pp.75-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 76
2. 論文標題 ブロックチェーンの展開と地域ビジネ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 情報経営第全国大会予稿集	6. 最初と最後の頁 pp.49-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 10
2. 論文標題 現代企業の社会的責任の基本問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実践経営学研究	6. 最初と最後の頁 pp.33-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyoshi Yusuke , Tsuzuki Kazuhiko, Itakura Hiroak	4. 巻 11
2. 論文標題 Will Encour aging the Return of the Driver 's Licenses of the Elderly Reduce Traffic Accidents? 共著 2018年12月 査読付 共著者	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Japan Association for Management Systems	6. 最初と最後の頁 pp. 137-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好祐輔, 都築治彦, 板倉宏昭	4. 巻 12
2. 論文標題 展開形ゲームによる青色発光ダイオード特許権争いに関する理論的分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好祐輔, 都築治彦, 板倉宏昭	4. 巻 第57号
2. 論文標題 自動車事故に及ぼす保険契約に関する実証研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州経済学会年報	6. 最初と最後の頁 pp.205-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭・原田保	4. 巻 10
2. 論文標題 アクターズネットワークデザインの基本構想 - 「アクターズネットワークデザインの他のデザイン要素との関係性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域デザイン学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.9-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 11
2. 論文標題 資本コスト経営に関する一考察 「無借金経営」と「同族経営」のケース	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業技術大学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉宏昭	4. 巻 9
2. 論文標題 離島発ビジネスの挑戦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 実践経営学研究	6. 最初と最後の頁 pp.241-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 ニューノーマル時代の日本企業の生き残り策と実践経営
3. 学会等名 実践経営学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 ポストコロナ社会における環境と経済の両立
3. 学会等名 横幹連合コンフェレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 品川クリエイティブゾーンフォーラムとの連携の可能性
3. 学会等名 地域デザイン学会第1回活動圏デザインフォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 地域発ビジネスの挑戦 地域価値連鎖によるケーススタディ -
3. 学会等名 地域デザイン学会全国発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木佐谷康, 板倉宏昭ほか5名
2. 発表標題 withコロナ時代の商店街振興政策の提言
3. 学会等名 第11回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Batuer Julaiti, 板倉宏昭ほか5名
2. 発表標題 日本と中国・新疆における商店街形式の比較・考察に関する研究
3. 学会等名 第11回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 信田勝美, 板倉宏昭
2. 発表標題 都市部商店街の変化と今後の地域ビジネスについて
3. 学会等名 第11回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑田倫幸, 板倉宏昭ほか5名
2. 発表標題 都市型観光における商店街の地域性：東京都品川区議会会議録のテキスト分析からの考察を中心に
3. 学会等名 第11回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 城裕昭, 板倉宏昭
2. 発表標題 街を活性化させる商店街組織の機能
3. 学会等名 第11回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 サイト・スペシフィック・ストーリーの戦略化の研究
3. 学会等名 経営行動研究学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 地域特性を導き出すサイトスペシフィック・ストーリーテリング
3. 学会等名 地域デザイン学会品川クリエイティブゾーンフォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三好きよみ、板倉宏昭
2. 発表標題 シニア層を対象とした学び直しプログラムにおけるPBL型科目
3. 学会等名 プロジェクトマネジメント学会2019年度春季研究発表大会、東洋大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木全晃、板倉宏昭。
2. 発表標題 組織変数を考慮したポーター仮説の実証研究 四国地域のサービス業をサンプルに
3. 学会等名 第62回日本経営システム学会全国経営発表大会講演論文集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 分散自律企業の可能性-ブロックチェーンの影響関係-
3. 学会等名 実践経営学会第62回全国大会実践経営学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 起業創業・企業内新規事業・事業継承権等を通じた未来の価値づくりを担う事業イノベーターの育成
3. 学会等名 地域デザイン学会 第一回東京シニアベンチャーフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 信田勝美、LEE YEE SIN、金奎星、板倉宏昭
2. 発表標題 商店会に於ける店舗承継の実際と地域バリュー・チェーンによる 持続的価値の提供
3. 学会等名 第10回横幹連合カンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金奎星、信田勝美、LEE YEE SIN、板倉宏昭。
2. 発表標題 地域活性化における商店街の新たな役割 戸越銀座を中心に
3. 学会等名 第10回横幹連合カンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 LEE YEE SIN、信田勝美、金奎星、板倉宏昭。
2. 発表標題 Regional Aging Issues and Measures, Focusing In Yashiro Park Town
3. 学会等名 第10回横幹連合カンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 ブロックチェーンの展開と地域ビジネス
3. 学会等名 情報経営学会 第76回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 現代企業の社会的責任の基本問題
3. 学会等名 実践経営学会第61回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀井省吾、板倉宏昭
2. 発表標題 集合知集約に関するシニア世代向けアイデアソンからの実装
3. 学会等名 情報コミュニケーション学会第16回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀井省吾、板倉宏昭
2. 発表標題 複雑な情報環境下のネットワーク・ダイナミクス有効性に関する一考察 被災地におけるデジタル回覧板アプリ開発プロセスを通じて
3. 学会等名 情報コミュニケーション学会第16回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三好きよみ、板倉宏昭
2. 発表標題 シニア層を対象とした学び直しプログラムにおけるPBL型科目
3. 学会等名 プロジェクトマネジメント学会2019年度春季研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 地域デザインにおけるアクターズネットワークデザインの基本構想
3. 学会等名 地域デザイン学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板倉宏昭
2. 発表標題 離島発ビジネスの挑戦
3. 学会等名 実践経営学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 板倉宏昭・石丸亜矢子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 地域バリューチェーンー持続可能な地域を造るー	

1. 著者名 板倉宏昭	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 525
3. 書名 新訂 経営学講義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

板倉研究室

<https://italabo.com>

「地域活性化における商店街の新たな役割 戸越銀座を中心に」がベストポスター賞を受賞

<https://www.aiit.ac.jp/NEWS/notice/20191206.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------